

連載

＝褥瘡（じょくそう）②＝
～知らず、知らずに？～

三戸呂 克美

私がお尻にキズをつくった原因は一つだけではない(と、思う)。入院中に天井を見つめて、なんで！どうして！と自問をしていたことと重ね当時の自分を振り返ってみたい。

平成26年が明けた正月、新しく購入した車いす（TDX）に思いを馳せて乗り込んだのが1月11日だった。その日は全国総会兵庫大会の第8回実行委員会を明石市生涯学習センターで開催する日であり実行委員が多数集まることになっていた。その仲間に新車の披露と今まで憧れていたティルト操作を見せたくて、早く、早く会場に行こう、と焦りのようなものを感じていた。そして仲間に出会いこんなことが出来るんや、と得意げに話していたそのとき仲間の一人から「全然身体に合っていないよ」との一言が聞こえた。その一言で僕の頭はパニック状態。業者が搬入してくれたときからどうもしっくりいかない、と感じていたこともあり適格な指摘ではあったが気持ちはそこには無く業者の担当者への恨みが起きていた。

電動車いすに乗るのは初めてではないが、背もたれを倒し楽な姿勢のティルト機構が付いたのは今回が初めてであり、以前から乗りたいと思っていた。電動に替えたのは、手動でアシスト機能が付いたヤマハJW2を長年愛用していたが外出先で故障するアクシデントが起きた。それと外出の機会が多くなり介助者の高齢化も重なり自力での移動が多少困難になり始め電動車いすの必要性を感じていた。

電動車いすの話はこれぐらいにして、ここで本題に移ろう。車いす購入の時デモ車に乗ったが業者任せにしたことがキズをつくる原因になったのは間違いない。座面のクッションを今までと同じロホのワンバルブにし、空気圧も今までと同じく高めに設定していた。シーティングに関しては勉強会や仲間の口から幾度も聞いていたことであり、褥瘡の解決策として何度も出てくる言葉である。それを軽く考えていたことは否めない。それが現実に起こったのが実行委員会を終えて家に帰りベッドに上がった時ヘルパーさんの「三戸呂さんお尻がえらいことになってますよ」だった。すぐにデジカメで写真を取り翌日恐る恐る見た時、身体から血の気が引くほどショックだった。しかしこれは序章に過ぎなかった。



左:1月12日 右:2月22日

to be continued